

# びわ湖ホールの文化的、社会的、経済的価値の評価 についての委託調査結果の概要

財団法人 びわ湖ホール

## 趣 旨

開館 10 周年を機に、これまでびわ湖ホールが行ってきた取り組みに対する評価を行う。

## 方 法

外部の専門研究機関に調査・分析を委託。

## 委託先

名 称：立命館大学衣笠総合研究機構地域情報研究センター

研究者：立命館大学政策科学部教授 村山 皓

期 間：平成 20 年 7 月 15 日～平成 21 年 1 月 31 日

## 研究テーマ

公的施設としてのびわ湖ホールの存立、あり方、運営についての評価の研究

- 「びわ湖ホールと滋賀県における文化芸術の振興に関する調査」の分析結果から -

## 分析・評価の方法：県民意識調査等の実施による分析・評価

### 県民意識調査等の概要

標本数 1, 232 ( 県内の有権者名簿から人口比率に応じて無作為抽出 )

回収数 453 ( 回収率 36.8 % )

調査票の質問数 16

\* 他に全国を対象にしたオムニバス形式の調査を実施

標本数 4, 000 回収数 1, 261 ( 回収率 31.5 % ) 質問数 1

## 調査結果の概要

### 1. びわ湖ホールの存立

～ 県民はびわ湖ホールの存在をどのように認識し、どのように利用しているか～

県民にとってびわ湖ホールの存在感は大きい。

どこにあるか知っている割合は 89.1 % (【図 1】)、利用したことがある割合は 54.2 % (【図 2】) と、県民のほとんどにその存在を知られており、利用度に関しても希望が丘文化公園、琵琶湖博物館に次いで高い。

びわ湖ホールの利用目的は必ずしも舞台芸術の鑑賞に限定されていない。

びわ湖ホールを利用したことがある者の割合が 54.2 % であるのに対し、びわ湖ホールの催しの中心であるクラシック音楽・オペラ、ミュージカル・演劇バレエ・ダンス

のいずれにも参加したことの無い者の割合が 87.5 %と高い。このことから、びわ湖ホールの利用には貸し館事業による公演への参加やコンベンションへの参加など、多様な目的での利用が含まれていると考えられる。

**全国的な知名度は滋賀県の公的な文化施設の中では圧倒的に高い。**

全国での認知度は琵琶湖博物館や安土城考古博物館をしのいでおり、全国で滋賀県の公立文化施設を知っている人のうち約5割がびわ湖ホールを知っている（【図3】）との調査結果が出ている。設立から10年余りしか経っていないことを考慮すれば、これまでのびわ湖ホールの活動がもたらした大きな効果であり、この効果をさらに高めていく施策展開が望まれる。

## 2. びわ湖ホールのあり方

～びわ湖ホールの県民への文化的、社会的、経済的效果はどのようなものであるのか～

### 文化的効果

県民がこれまでびわ湖ホールが果たしてきたと考える役割のうち最も大きいのは、質の高い音楽や演劇の文化芸術に接する機会を県民に提供するところとしての役割であり、次いでプロの歌手や劇団が公演を行うところとしての役割、音楽や演劇の楽しさを伝え県民の文化や芸術を見る目を育てるところとしての役割、の順（【図5】）である。今後びわ湖ホールに期待する役割としてもこれら3つの役割が上位を占める（【図6】）。

これらの役割を果たすことにより、県民に対し、自己実現を図り、新たな発想を生み、感動や癒しによって明日への生きる活力を与え、加えて、未来に向けて感性豊かな人が育つ環境をつくってきたことが、びわ湖ホールが県民に及ぼしてきた文化的効果である。

### 社会的効果

の文化的効果を提供する施設としての機能に加え、県民自身が音楽や演劇などの文化芸術活動を発表する場であること、新しい産業の振興や既存産業の付加価値を高めること、まちづくり、環境、福祉、教育などさまざまな分野との関わりにおいて、地域に活力を与えることが社会的効果と捉えられてはいるが、県民自身の、自分たちが文化芸術活動を発表する場としてのびわ湖ホールに対する認識が低いこと等もあって、文化的効果に比べると明確に意識される段階には至っていない。

### 経済的效果

プロの歌手や劇団が公演を行う施設として機能し、その集客力を通じて、新しい産業の振興や既存産業の付加価値を高めたりするなど、地域社会に利益をもたらすことが経済的效果であると考えられているが、県民にはこの面でのびわ湖ホールの効果は文化的効果や社会的効果に比べて相対的に低いと捉えられている。

### まとめ

県民は、プロの歌手や劇団の公演を通じて、質の高い音楽や演劇などの文化芸術に接する機会を提供し、音楽や演劇の楽しさを伝え、文化や芸術を身近なものとして深く理解するようになることがびわ湖ホールがもたらす一般的な効果と捉えている。このことは、びわ湖ホールが、これまで、こうした評価を得るに値する質の高い舞台芸術を提供してきた結果であると考えられることができる。

県民への説明責任を果たしうる効果の第一はこうした文化的効果であり、これと比較すると、社会的効果や経済的効果は、現時点ではまだそれほど明確で大きなものとはなっていない。

なお、県民の文化芸術活動の発表の場、県民が文化芸術活動に参加する生涯学習の場として機能することへの期待の大きさが、市町立文化ホールに対しびわ湖ホールの方が相対的に小さい(【図4】)こと等に現れているとおり、県民はびわ湖ホールに、市町立文化ホールとは異なる存在感を認めていると考えられる。

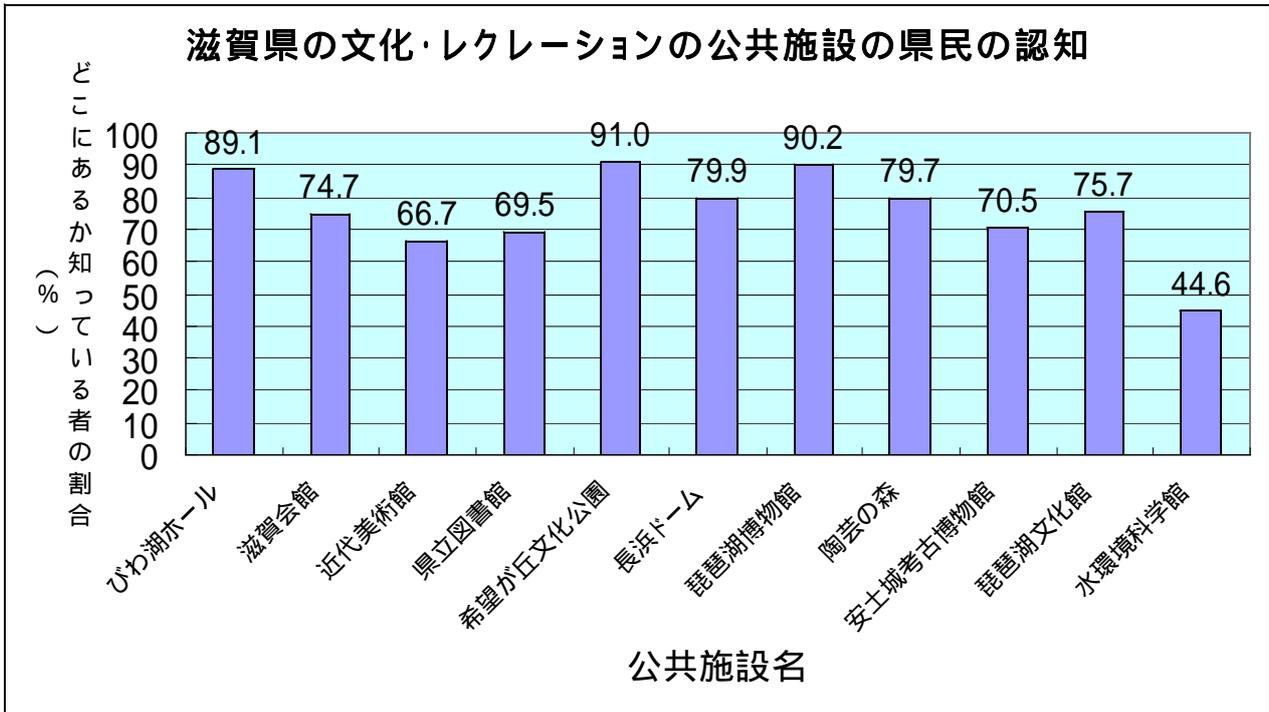
### 3. びわ湖ホールの運営

～県民はびわ湖ホールの運営をどのように考えているのか～

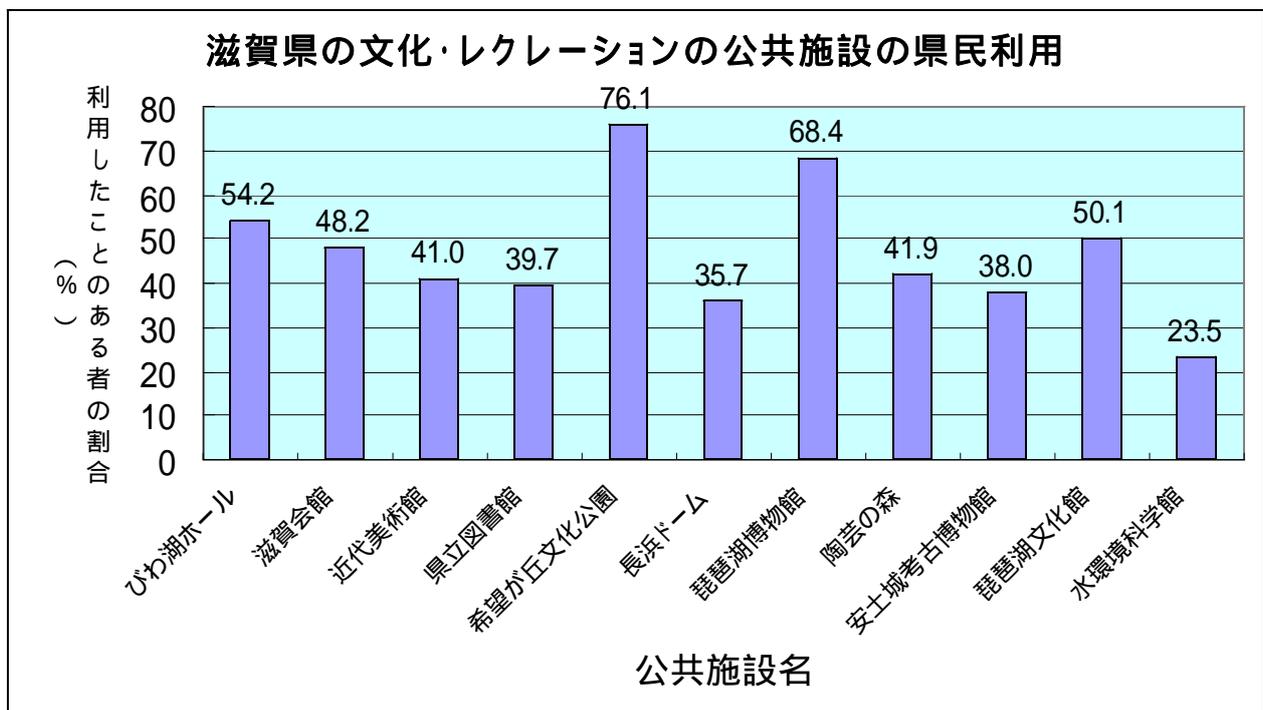
びわ湖ホールの運営についての県民の見方には、高度な芸術性を志向する運営を重視する傾向と、採算志向の運営を重視する傾向の、二つの要因が交差している。

「県の施設として、日本の代表的な文化芸術施設となれるような運営が必要である」、「芸術性の高い公演を行うための運営が必要である」、「親しみやすい大衆的な公演を行う必要がある」、「運営には採算性を重視すべきである」の項目に対する同意がほぼ同列という調査結果が出ており、高度な芸術志向の運営を重視する見方と採算志向の運営を重視すべきとする見方の両方の見方(【図7】)がある。

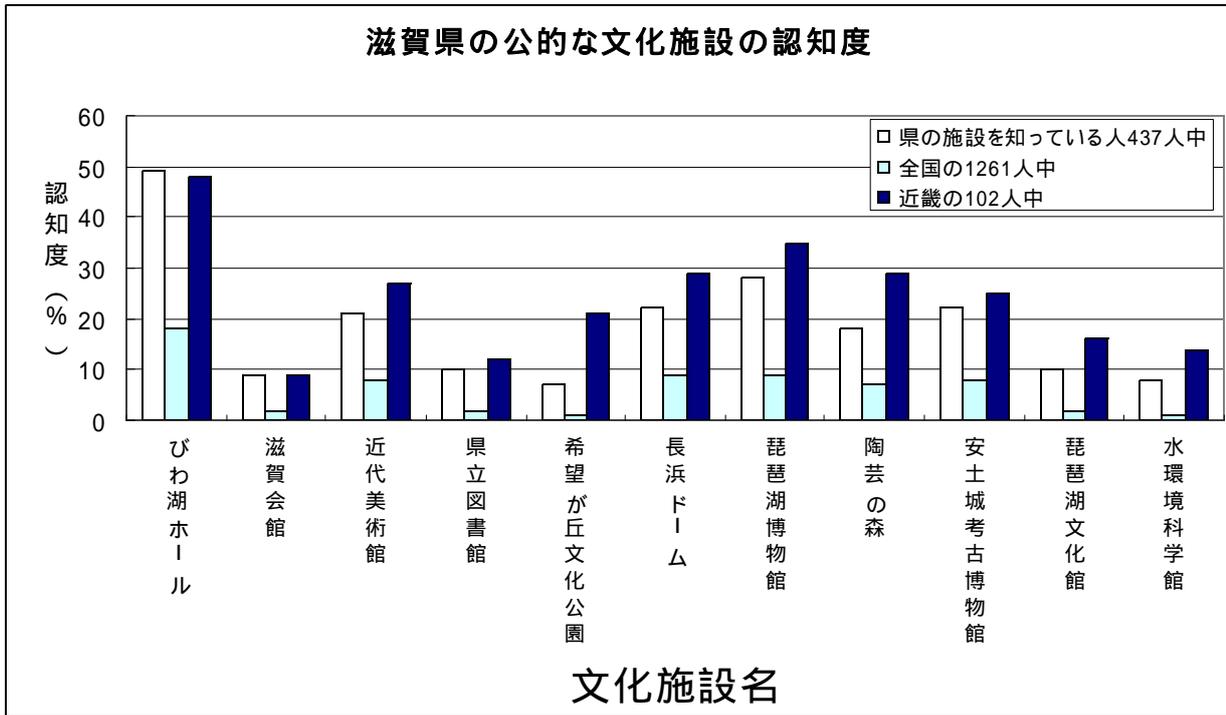
【図1】



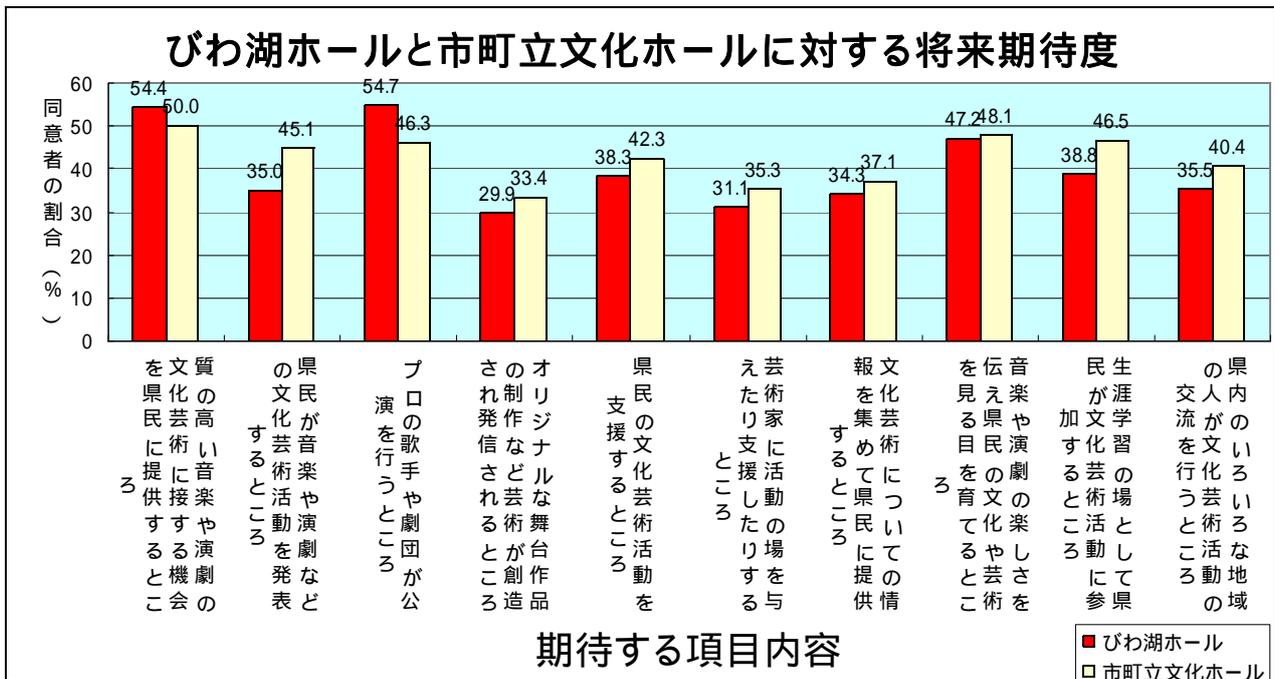
【図2】



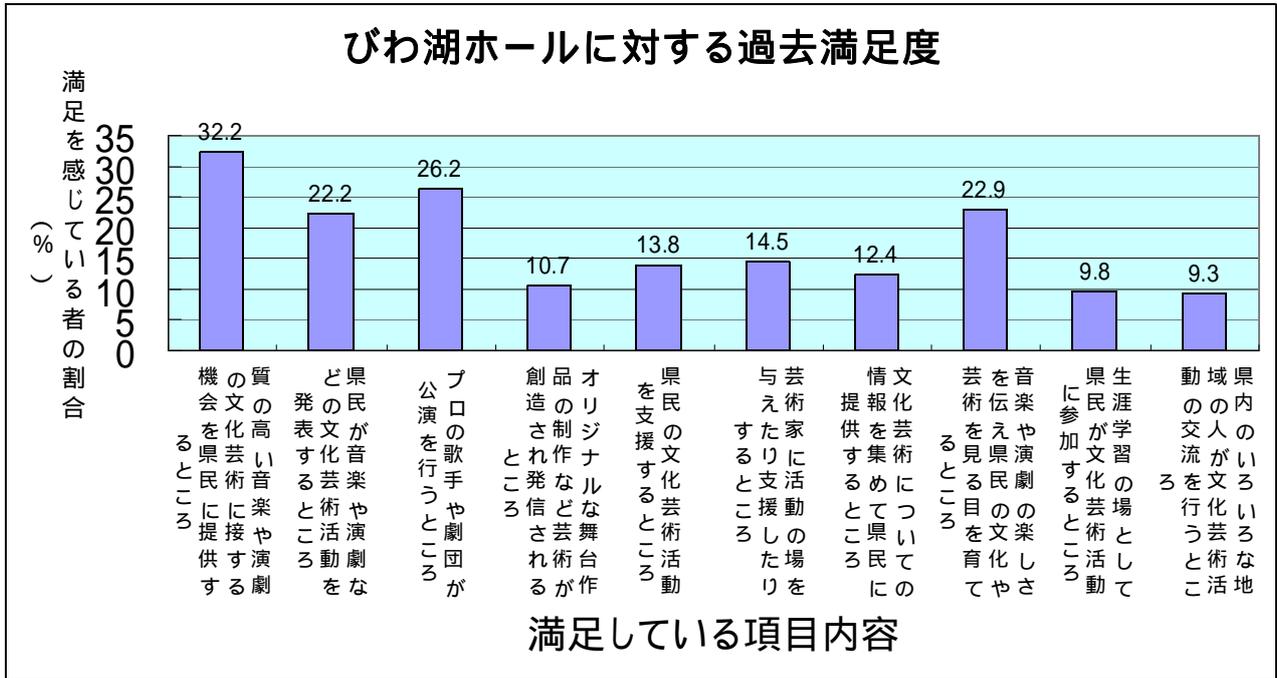
【図3】



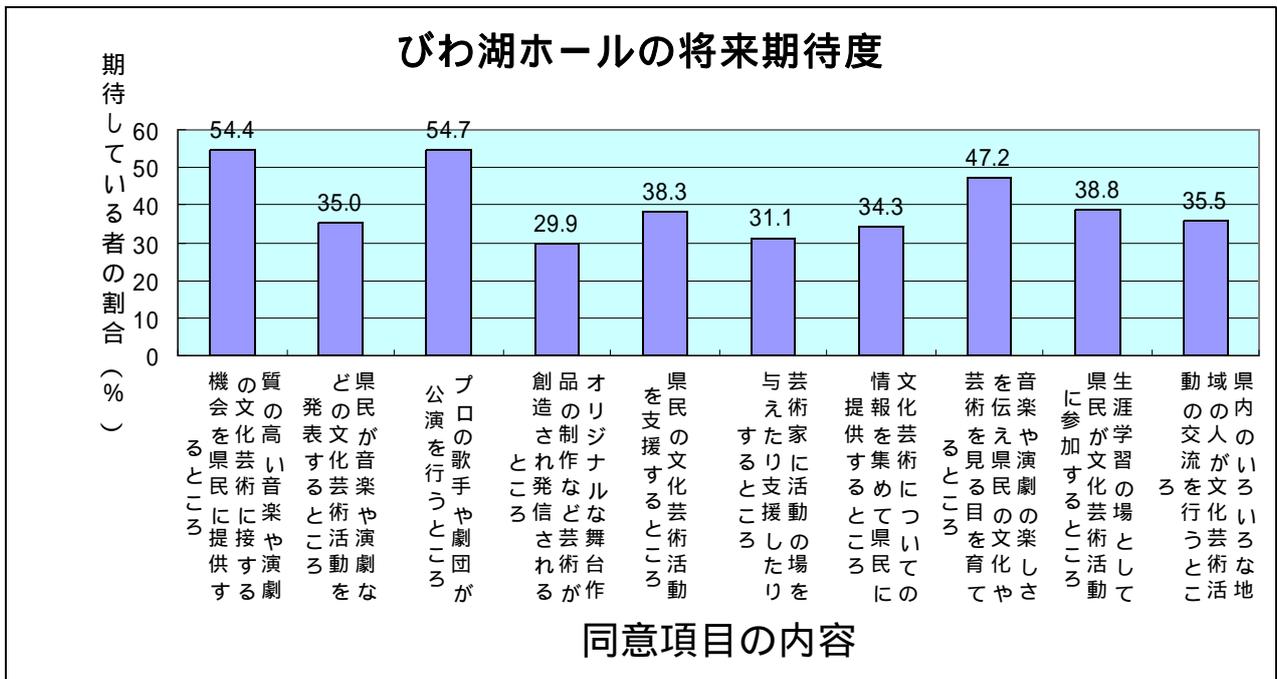
【図4】



【図5】



【図6】



【図7】

